

令和7年度 第3回射水市食育推進会議 会議録

開催日時 令和8年1月29日（木）午後1時30分から2時30分

開催場所 射水市役所 302・303会議室

出席者 射水市食育推進会議委員〔8名〕

姫野委員、尾上委員、亀谷委員、窪田委員、犀藤委員、杉高委員、
皆元委員、鷺北委員

射水市食育推進会議幹事会〔10名〕

杉本福祉保健部長、菓子福祉保健部次長、市井環境課長、
政岡保険年金課長、三浦保健センター所長、水島子育て支援課長、
坂井こども福祉課長、寺井観光まちづくり課主任、野崎農林水産課長、
佐藤学校教育課長補佐

事務局〔4名〕

坂本保健センター所長補佐、山口主査、中谷主任、澁谷管理栄養士

1 開会（司会：三浦保健センター所長）

2 福祉保健部長あいさつ

3 委員の紹介

4 会長・副会長の選出

会長に姫野委員、副会長に尾上委員を選出

5 議事

(1) 第4次射水市食育推進計画（素案）に対する意見募集結果について（資料1）

(2) 第4次射水市食育推進計画（案）について（資料2）

(3) その他（資料3）

意見交換、質疑応答

【会長】事務局から第4次水市食育推進計画素案に対する意見募集結果について、また、第4次射水市食育推進計画案についてあわせて説明があった。

今回初めて委員になられた方はこのようなことを射水市が行っていることを知らなかったと思うが、たくさんの取組をしている。この計画書は配布されるのか。

【事務局】計画書は関係者以外に配布はしないが、ホームページで公開する。概要版は市民向けに配布する。

【委員】書いてあることは、すごくいいことだと思うので、もっといろんな人に伝わってほしい。教育現場でも、学校給食の大切さが先生や生徒にもしっかり伝わるようなアピールができれば良いし、資料だけではなくもっと実践的に行動に移すことが大事だと思う。射水の食べ物は本当に素敵なものがいっぱいあるといったことを子ども

だけではなく、大人に対してもアピールできれば良い。そのために例えばスーパーや、駅のコーナーに置くとか、いろいろやり方はあると思う。

【事務局】 朝食に関する取組については、来年度、強化していこうということで、学校や、いろんな事業所と協力しながら取り組む計画をしているところである。それが親御さんや生徒たちに伝われば良いと思っている。

【会長】 自分たちが普段口にしてるものがこれだけ考えられているということに驚きを感じ、感謝している。ただ、それが一般の方に知られていないことは残念なので、知らせる手段や周知について今後考えていただきたい。

カニ給食はすごくインパクトがあるようで、県外に出るとよく「給食にカニが出るんでしょ」と言われる。インパクトのあることを射水市で実施されていることが県外ではよく知られている。

【委員】 計画書の空きスペースに「食事バランスガイド」や「加工食品の表示」などコラムを加えていただき、初めて見る人にもより分かりやすくなったと感じている。

子どもにおける食育はやはりすごく大事なことである。その部分において、市役所の関係各課が一堂に会し食育計画を作っていただき大変ありがたい。先ほどこれがしっかり周知されるのかということも話題になっていたが、確かに今の時代において、紙ベースで配布するのも一つだが、ホームページや SNS 等で周知していくということも良い。学校関係であれば、これを受けて学校給食で食育をどう生かしていくかということも新たに検討をしている。

子どもたちの朝食摂取率がだんだん少なくなっているという話について、やはり世の中全体の生活リズムの変化が大きく影響してきている。学校で子どもたちに話したり、保護者にいろいろ訴えても、やはり親御さんの勤務などにより、子どもの朝食、夕食という時間になかなか一緒に同席できないような働き方をしている方もおられる。25日にはあったか家族の日ということで、市内全体でそういったことに取り組める日を設けているので、多くの企業や事業所にも少なくとも25日は、夕食は子どもたちと一緒に食べられる対応をするような協力を求めていくことが大事であると思っている。そうすると、親御さんも少しでも早く家に帰ったり、また子どもと一緒に夕食を考えたりという活動に取り組み、より食育という部分については前向きに取り組んでいけるのではないかとと思っている。

そういう意味でこの25ページにあったか家族応援プロジェクトの「のぼり旗」をどんどん掲示していただくと、より強い効果が出るのかなと思う。

【委員】 言葉を選ばずにお伝えさせていただくと、消費者側の立場に立って考えたときに、射水市の本当に素敵な食材というものが、果たして消費者に求めやすいものなのかどうかというところに疑問を感じている。例えばスーパーだったり、道の駅だった

りいろんなところにそれを購入するブースがあるが、物価高が非常に深刻になってる状況。それを賄えるぐらいの地元の野菜や魚が求められやすい価格で買えるのであれば食育が良い方向に進んでいくと思う。体にいいけど高いのでは、共働きで日々一生懸命仕事や家事をされているお母さんたちがそこまで目を向けないのではという思いがある。射水市内の一番多い層に向けての発信が結構大事になると思う。

【会長】 物価高でなかなか昔のように買えないのは切実な問題だと思う。せっかく射水には美味しいお魚もいっぱいあるが、高く買えないということもある。

給食でも、使いたい食材があるけれども高く買えないということも聞いている。射水市で安く作れたら良いが、その辺の対策は何かあるか。

【農林水産課】 今言われたことは大きな課題であると思う。魚など良いものを提供してるが、価値に見合った価格ということで高い。野菜は実際あまり作られていない。富山県は水稻の率が多く、園芸に向かないということもある。ご飯は副食に比べれば安いと思うが、今までが安すぎた。我慢してきた農家へ限界まで下げるように言えない。

【委員】 魚について言うと確かに高くなってきている。漁業者はより新鮮でより衛生的な魚を届けるためにいろんな設備投資をしている。魚種によっては、特にイワシ類はかなり美味しいのに安い。味に価格が追いついてないと思う。イワシは鮮度落ちが早いのでしっかり氷をきかせ新鮮でいい状態なので、業界としておすすめである。

【会長】 上手に食材を選んで使っていきたい。

【委員】 朝食の欠食率だが県全体でも射水市と同じような状況で少し下がってきているという状況。首都圏はもっと多く、富山県や射水市もそこに近づきつつある。スマホなどを触っていて夜更かしをしてしまうということが要因の一つに挙げられている。朝食を毎日食べることは生活習慣の大事なことの一つ。単に朝ご飯を食べるだけじゃなくそのために早寝、早起きが大事ということを学校現場で子どもたちに伝えていかななくてはと思っている。

給食では小学生は出されたものを全部食べれたら良しとする。なぜなら今まで経験のない食材や味に給食で初めて出会う子たちがたくさんいる。郷土食と言われるものを家で全然食べない、がんもどきを初めて見たという子もいるので、食の経験を学校ではしていかななくてはいけない。

中学生では自分で考えて食べられるように、給食のレシピを紙で配ったりホームページに載せたりすることで「家で作ってみた」と報告してくれる。そのように携わる機会を増やしていくことが効果的と思っている。

地産地消の部分だが、射水市は小松菜をたくさん作っているし栄養価が高く子ども

たちに摂らせたい食材でもあるので、積極的に活用している。頻繁に出しているが「射水市産の小松菜だよ」と伝えた日には「やっぱり美味しいと思った」と生徒が言う。いつも出してるが、そういう価値をつけられる。「今日は新米の富富富だよ」と伝えると「新米やっぱりね」って噛みしめたり見直したりする。そのようなことがあるので、学校内での子どもたちへの啓発をずっと地道に続けていくべきだし、栄養教諭を配置していない学校もあるので、横の繋がりをもっと綿密にとって情報提供とか情報共有をしながら市全体でレベルアップしなくてはと思っている。

【会長】 子どもたちは宝。食べる力は生きる力になる。栄養だけではなく心や体、生活習慣、社会性、全てのことに通じるいい勉強の材料になる。学校給食を教材にして食べたことのないものが食べられるようになったり、地産地消、野菜の旬の時期、栄養や食品ロスなど何でも学ぶことができると思うので、学校でしっかり教えてあげてほしい。

【委員】 幼児から高齢者までを対象に食育活動のボランティアをしている。先日も親子の食育をして、「うちの子、家で手伝ったことないし包丁一つ持ったことないのでできるのかしら」という声があったが、初めて持った包丁で上手に料理をして、一緒に作る楽しさや喜びがあり、自分たちで手がけたものを美味しく食べた。「大勢の中で食べると、家で食べなかったのに今日初めて喜んで食べた」と、そういう声も聞かれた。

今のお母さんや子ども達は忙しすぎて親子でじっくり料理をしたり、一緒に過ごす時間が少ないのではないかと。保育園の先生に聞くと、コンビニでおにぎりを1個買って、「これを食べさせてください」と言われるお母さんがおられると。朝食と一緒に食べる時間がなく、子どもたちが孤食であることを避けたい。そういう食育の大切さを、地域の方々に伝えている。おふくろが作った我が家の味もだんだん薄れてきている。それを踏まえて若い世代の方、そして成長期の子どもを育てる親御さんたちに食育の大切さをこれからも伝えていきたい。

【会長】 食べるということが、教材にもなるし、家族の素敵なコミュニケーションツールにもなる。

【委員】 25 ページのあったか家族応援プロジェクト。言葉を聞いたことがあるなどと思ってこの挿絵を見たら、見たことがある。ただ、25日にスーパーが5%安くなる日だということしか理解できてなかった。5%引きというのは頭に残っているが、内容を理解できてない。例えば、スーパーで「今日は家族みんなで話し合いながら食べてくださいね」と放送してもらったら伝わるのかなと思った。

【委員】 概要版の中面だが、推進計画書の33ページには各世代の年齢があるので、一般の人に配布するならここにも年齢を表示したらよい。

【事務局】 わかりやすさを重視し、年齢を加える。